

茨城高等学校・中学校

校長室だより

2024年4月12日

ある春の日のランチタイム

春休みのある日のこと、朝から出勤していましたが、その日はこれといって予定も事件もなく、ひたすら平穏な時間が過ぎていました。お昼時も近くなり、そうだ、こんな日はちょっと外にお昼を食べに行こう、と思いつきました。事務室に外出することを伝え、愛用の自転車にまたがって、花曇りの空の下、校門を出ました。

さて、フラフラとさまよい出たのはよいのですが、まったく無計画、思いつきの行動のため何を食べるか決めていません。せっかくだからファストフードやチェーン店はいやだなあー、かといっておしゃれなカフェとかだとぜったい浮いちゃうだろうなあー、などと悩みつつ自転車を走らせること10数分、筆者の目の前に「〇〇屋」という看板の、いかにも大衆食堂と呼ぶのがふさわしい店構えのごはん屋さんが現れました。自転車を止めて観察すると、なんとガラスのショーケースの中に、ラーメンやカツ丼やカレーライスの色あせた食品サンプルが並んでいます。昭和からタイムスリップしてきたようなたたずまいがうれしくなって、そのお店に決めました。

お店に入ると、会社の昼休みにはまだ少し早い時間のためか、先客は40代とおぼしき女性一人と常連らしいおじいさん一人の二組だけでした。注文を取りに来たおかみさんのお薦めに従って、「タンメンとミニひれカツ丼の日替わりランチ」を頼みました。税込み700円也。価格まで昭和スタイルです。

少し待つと食事が運ばれてきました。タンメンはストレート麺にさっぱり系の白湯スープで、なぜかどんぶりの中央に大きめの揚げ餃子が1個、ドン！と鎮座しています。ひれカツ丼は卵とじのいたってノーマルなタイプ、小皿に厚めのタクアンが3切れ、それにホットコーヒーが付いています。和洋中折衷の、全方位型と呼びたい個性的なラインナップでしたが、タンメンは野菜がシャキシャキしていて、カツ丼もおダシのしみた優しい味で、大変おいしくいただきました。

自分が食事をしているうちに、先客の女性が会計に立ちました。狭いお店なので、女性客とおかみさんの会話が自然と耳に入ってきます。「あの一、覚えていらっしゃるか分からないんですけど…。私、子どもが小さいころよくこのお店に寄らせてもらっていたんです、双子の子どもを連れて。子どもたちがこの席でお魚を見るのが大好きで…」見ると、その女性客が座っていた席は目の前に水槽があり、色とりどりの小さな熱帯魚たちが泳ぎ回っています。お店のおかみさんも「あ、覚えています。双子ちゃんが並んで座って…、お魚を見て喜んで…」と答えています。自分はふと、その水槽の前におんなじ顔をした幼児二人が並んで座り、泳ぐ魚をめまぐるしく目で追いかける様子を思い浮かべ、微笑ましくなりました。

すると女性客は、「実は、その双子が、今度高校生になるんです」と話しはじめました。「ここまで、色々あって…大変だったような、あつという間だったような。もうすぐ入学式なんですけど、その前にこのお店で食事がしたくなって来ちゃいました」昼時になり、お客さんが立て込み始めた

ので、双子の兄弟(姉妹?)の話をおしまいで聞かずに会計をして店を出ました。

外に出ると、もう肌寒くない春の風が頬をなでました。そういえば、双子ちゃんは同じ高校に入学するのだろうか、それとも別々の学校に進むのだろうか？それだけでも聞いておけば良かったなあ、とちょっと後悔しました。もしかしたら茨高^{ツチ}だったりして、と想像するとなんだか少し笑ってしまいました。

先ほどのお母さんの「実は、その双子が、今度高校生になるんです」という明るく弾んだ声が、まだ耳に残っています。春はいろいろなことの始まりの時期です。双子ちゃんにも、お母さんにも、新しい生活への不安はあるかもしれないけれど、春という季節には、それを上回るワクワクした気持ちにさせる何かがあるのでしょうか。

どの学校に入学するのかわからない双子ちゃんも、茨高生も茨中生も、みんな4月になったら、それぞれの新しい環境で気合いを入れてがんばれよー、と思いながら春たけなわを待つ街に自転車を走らせました。

※「校長室だより」は、本校のHPにも掲載しています。バックナンバーを読みたい人は、HPの「学校案内」→「校長室だより」からどうぞ。